

■ 北海道遺産

次の世代に遺したい 北海道の「宝物」 北海道遺産

まちの元気や魅力の種を探し、育んでいくことを通じて、新しい魅力を持った「大きな北海道」をつくって行きたい…。豊かな自然はもちろん、北海道に生きてきた人々の歴史や文化、産業など有形・無形の財産の中から、道民の参加により選ばれました。

道内で74、十勝管内では6つの大切な宝物が北海道遺産に認定されています。



旧国鉄土幌線コンクリートアーチ橋梁群 (上士幌町)

昭和初期に十勝内陸の産業開発を目指して建設された第1級の鉄道遺産。

市民と産学官が一体となって、34橋梁を保存しました。中でもタウシュベツのアーチ橋は、糠平湖の水位により姿を変える「幻の橋」として人気です



馬文化(ばん馬、日高のサラブレッドなど) (北海道の各地)

古くから本道の開拓にあたって人々と苦労をともにしてきた北海道の馬たち。

帯広では世界で唯一の「ばんえい競馬」が開催されており、2006年公開の映画「雪に願うこと」の舞台にもなりました。



モール温泉 (音更町ほか)

呼び名のモールは「Moor」のドイツ語読みにちなむもの。泥炭を意味し、独特の黒っぽい湯が特徴。主成分は植物性腐食質、鉍物成分より植物成分が多く、古くから美人の湯として親しまれています。



螺湾(らわん)ブキ (足寄町)

足寄町の螺湾川に沿って自生する高さ2m~3mにもなる巨大なフキ。なぜ大きくなるのかはいまだに謎。ミネラルが豊富で繊維質に富み、足寄町のオリジナルブランドとして有名です。



十勝三股の樹海 (上士幌町)

大雪山国立公園の東部に位置する十勝三股は、約100万年前の大規模噴火によって生成したカルデラです。エゾマツをはじめとする広大な森林が広がるとともに、永久凍土などの寒冷地帯、温泉などの地熱地帯が共存することで、多様な生物が生息しているということが特色となっています。

北海道の集治監 (帯広市ほか)

北海道の初期インフラ整備と地方文化形成を担った集治監(国立刑務所)。十勝分監(後の十勝監獄)の受刑者は農地開発など十勝の開拓に従事しました。十勝監獄石油庫は帯広市で現存する最古の建造物であり、帯広市指定文化財に登録されています。

北海道遺産HP(北海道遺産構想推進協議会)
<http://www.hokkaidoisan.org/>

■ 道路

広大な面積を有する管内では自動車交通への依存度が高く、高速自動車国道、国道、道道などによる道路網は圏域内外の物的・人的交流に重要な役割を果たしています。

高速自動車国道の北海道横断自動車道（道東道）は、平成23年10月に占冠～夕張間が開通し、十勝圏が道央圏と直接結ばれ、両圏域間を往来する利用交通が増加し、交流人口が拡大しました。さらに本別JCTを分岐点として釧路方面及び北見方面への整備が進められており、令和6年12月の釧路西ICまでの開通により、十勝圏と釧路圏が高速道で結ばれました。現在は占冠～十勝清水間の4車線化や、新直轄方式による足寄～陸別間の整備が順次進められているところです。

一般国道自動車専用道路の帯広・広尾自動車道路は、平成27年3月に更別～忠類大樹間が開通し、現在は忠類大樹～豊似～広尾までの整備が進められ、帯広から十勝南部への所要時間の短縮による物流や救急搬送などの利便性向上が期待されています。

また、幹線道路に接続し交通ネットワークを形成するため、長流枝内や新得のスマートインターチェンジへのアクセス道路や、帯広圏域環状道路の未整備区間（道道幕別帯広芽室線）、緊急輸送道路における無電柱化などの整備が進められています。

高規格幹線道路・道の駅の整備状況



整備計画区間（直轄）：新直轄方式（平成15年導入）
 ・新会社による整備・管理が難しいと見込まれる高速自動車国道の路線・区間の整備を国が直轄で行う区間
 ・事業費は、国、地方公共団体が負担し、通行料は無料

■ 道の駅

「道の駅」は、道路利用者のための休憩機能、地域の情報発信機能、また、道の駅をきっかけに地域の連携を図り、共に地域づくりを行う地域連携機能を併せ持つ施設として整備されています。

管内では、15箇所の「道の駅」が整備されており、令和4年度には「おとふけ」が移転しています。

■ 新たなモビリティサービスの導入

近年、公共交通においては、少子高齢化に伴う利用者の減少、自動車運転免許証の返納に伴う高齢者の移動手段の確保、バス・タクシー運転手等の担い手不足などの課題が生じています。

管内では、これらの課題に対応し、公共交通の維持・確保を図るため、移動の利便性向上にもつながる、デジタル技術等を活用した新たなモビリティサービスの導入を進めています。

デマンド交通の導入

管内では、郊外地域から市街地への移動ニーズに対応するため、利用者の予約に応じて運行するデマンド交通の導入が進んでいます。

帯広市や音更町をはじめとする10市町村でデマンドバス・タクシーが導入されています。



乗合タクシー（更別村）

観光MaaS「トカチケ」

管内の公共交通と観光施設入場券・アクティビティサービスを組み合わせた交通旅行商品の検討・造成・販売により、域内外の観光客等の利用促進及び地域活性化を図る観光MaaSの取組が行われています。



自動運転バスの導入

持続可能な地域公共交通網を構築するため、帯広市や上士幌町では自動運転バス車両の実証実験、定期運行が行われています。



自動運転バス（上士幌町）



自動運転バス（帯広市）

5 交通・運輸

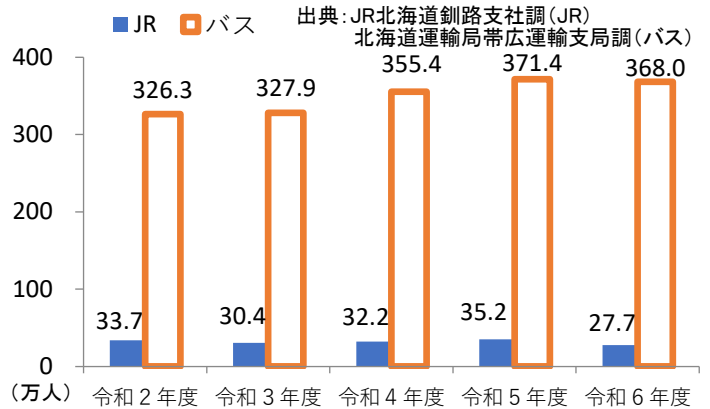
■ 鉄道・バス

十勝圏の鉄道は、JRが道央圏や釧路圏とを結び、帯広～札幌間を最速2時間21分、帯広～釧路間を最速1時間31分で運行しています。

都市間バスは、道東自動車道の整備により、札幌まで最速3時間25分で結ばれ、鉄道と並ぶ移動手段として多くの利用があります。

また、地域の移動を支える路線バスは、国や自治体の補助を受けながら、日常生活に欠かせない交通手段として運行されています。公共交通の空白地域では、コミュニティバスやデマンドバス・タクシーを導入するなど、地域の実情に応じた取り組みも進められています。

鉄道・バス乗客者数の推移



■ 空港

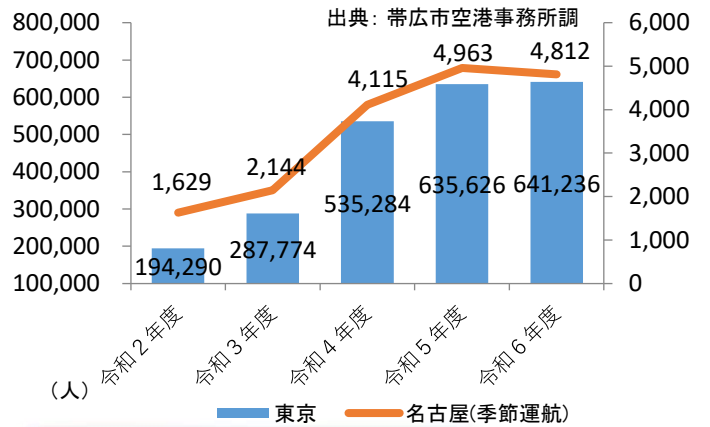
十勝管内唯一の空港である「とち帯広空港」は、昭和56年の開港以来、地域の空の玄関口として親しまれています。

2,500メートルの滑走路を備え、現在は日本航空（JAL）とエア・ドゥによる羽田便が運航されているほか、名古屋便が季節運航され、ビジネスや観光など幅広い目的で、多くの方に利用されています。

令和7年5月には、帯広空港では初となる国際定期便が就航し、韓国・清州（チョンジュ）との空のアクセスが新たに開かれました。国際線の就航を契機として、地域の国際交流や観光振興への期待が高まっています。

また、国内各地の空港からチャーター便が運航されており、令和7年6月には、帯広空港で初めてソラシドエアによる宮崎便のチャーター運航が実現しました。路線の広がりとともに、さらなる利便性の向上が図られています。

とち帯広空港利用者数の推移



とち帯広空港
(帯広市)

■ 港湾

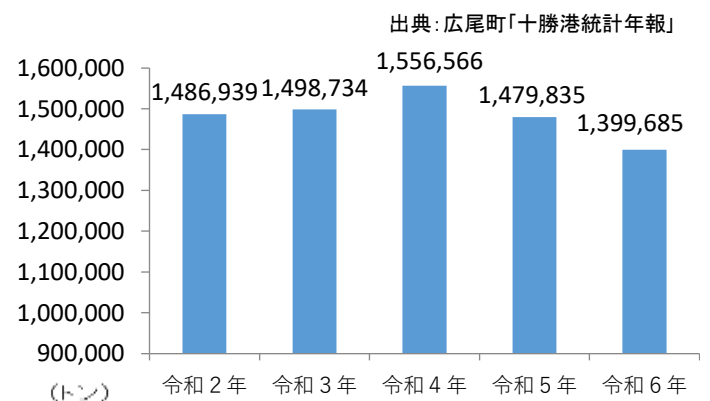
昭和45年に重要港湾の指定を受けた十勝港は、本道と本州を最短距離で結ぶ地理的条件に恵まれています。

平成11年7月に税関の出張所が設置され、関税法による貿易開港が実現し、平成12年6月には、釧路港への無線申請で入港が可能な無線検疫港に指定されました。

また、平成22年4月には、4～8万トン級の大型貨物船が着岸できる水深13m岸壁の本格供用が開始され、同年10月には道内最大級の配合飼料コンビナートが竣工し、翌年4月から本格稼働しています。

令和6年5月には十勝港と京浜地区の港を結ぶ定期コンテナ船が就航し、令和7年3月には国土交通省により「産直港湾」として認定されました。

十勝港貨物取扱量の推移



重要港湾「十勝港」(広尾町)

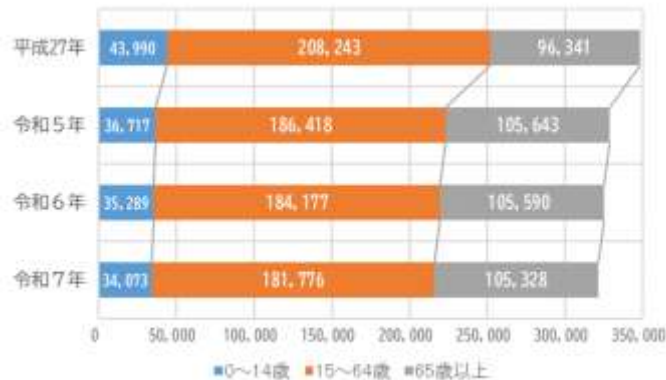
6 保健医療福祉

■ 概況

人口の減少や少子高齢化の進行のほか、生活習慣病の増加など疾病構造の変化、世帯の小規模化や独居高齢者の増加など世帯構造の変化、さらには、住民の価値観やライフスタイルの変化に伴うニーズの多様化など、保健医療福祉を取り巻く環境は著しく変化しています。

このような中で、安心して心豊かに暮らすことのできる地域社会の実現に向けて、地域の実情に応じた保健医療福祉施策を総合的に推進することとしており、「がん対策を推進するなど生活習慣病を予防するための体制づくり」や「高齢者や障がいのある方々が暮らしやすい地域づくり」、「だれもが安心して子どもを産み育てることができる環境づくり」などの取り組みを進めています。

年齢別人口及び人口比率の推移



出典：住民基本台帳人口に基づく人口、人口動態及び世帯数調査（各年1月1日現在）



保育の様子

社会福祉施設の状況（単位：箇所）

施設名	十勝	全道
養護老人ホーム	7	57
介護老人福祉施設	54	510
軽費老人ホーム	4	125
老人デイサービスセンター	116	1,797
生活支援ハウス	7	55
認知症高齢者グループホーム	80	999
障害児入所施設	2	24
子ども発達支援センター	15	90
共同生活援助	54	931
障害者支援施設	17	193
生活介護事業所	48	661
自立訓練（生活訓練）事業所	4	62
就労移行支援事業所	7	138
就労継続支援A型事業所	13	260
就労継続支援B型事業所	78	1,501
児童発達支援事業所	52	1,252
放課後等デイサービス事業所	65	1,476
介護老人保健施設	14	179
児童養護施設	1	23
保育所（保育所型認定こども園を含む）	54	767
放課後児童クラブ	80	1,018
児童館	20	359
子育て支援センター	31	422
介護医療院	2	53

資料：総合振興局保健環境部保健行政室及び社会福祉課

（令和7年12月31日現在）

（保育所、児童館、子育て支援センターは、令和6年4月1日現在）

（放課後児童クラブは、令和6年5月1日現在）

6 保健医療福祉

■ 保健医療

十勝では、帯広市及び周辺3町（音更町・芽室町・幕別町）の人口が管内人口の約7割を占め、医療機関についても管内の約7割、医療従事者については管内の8割以上がこの地域に集中しています。

このため、地方・地域センター病院(※)が中核医療機関となり、へき地等の医療機関へ医師派遣を行うなど地域医療の確保に努めています。

北海道健康増進計画の目標である「健康寿命の延伸」と「健康格差の縮小」の実現に向け、十勝としての現状や課題を踏まえ「十勝圏域健康づくり事業行動計画」を策定し、地域の関係者と役割分担をしながら健康づくりを推進していきます。また、各市町村において計画的な生活習慣病予防対策などの取り組みを進めています。

※地方・地域センター病院とは

地方センター病院は、第3次保健医療福祉圏（全道6圏域）の高度・専門医療機関として、地域センター病院は、第2次保健医療福祉圏（全道21圏域）の中核医療機関として、それぞれ道が指定します。

十勝管内では地方センター病院として帯広厚生病院、地域センター病院として帯広厚生病院と帯広協会病院を指定しています。

医療施設の状況

施設名	十勝管内	全道
病院	32	534
診療所	201	3,403
歯科診療所	163	2,742
薬局	145	2,349



オストメイト対応トイレの設置（浦幌町）

出展資料：令和5年北海道保健統計年報）
病院・診療所・歯科診療所 令和5年10月1日 現在
薬局 令和6年3月31日 現在

■ 福祉

高齢者の福祉については、「第9期北海道高齢者保健福祉計画・介護保険事業支援計画」に基づき、「道民みんなで支え合う、明るく活力に満ちた高齢社会づくり」を基本テーマとして、地域包括ケアシステムの確立を目指した施策を実施しています。

障がい者の福祉については、「北海道障がい者条例」、「第1期ほっかいどう障がい福祉プラン」に基づき、「希望するすべての障がい者が安心して地域で暮らせる社会づくり」を目指し、各種施策を実施しています。

また、「北海道障がい者条例」に基づき設置した「障がい者が暮らしやすい地域づくり委員会」では、障がい者の虐待や差別、様々な暮らしづらさの問題について、関係者との話し合いにより解決を図るほか、障がい者福祉に関する地域の課題等についての話し合いも行っています。

子ども関連施策としては、令和7年4月にこどもの権利保障等を基本理念とする「北海道子ども基本条例」を策定し、大人が中心になってつくってきた社会を、「こどもまんなか社会」へと変えていくための取組を推進しています。

「こどもまんなか社会」とは、こども・若者が個人として尊重され、自分らしく、幸せな状態（ウェルビーイング）で生活を送ることができる社会であり、こうした社会の実現は、こどもを産みたい、育てたいと考える個人の希望が叶うことにつながり、ひいては、少子化・人口減少の流れを変え、未来を担う人材を地域で育み、地域社会の持続可能性を高めることにもつながります。

社会福祉課において配偶者暴力相談支援センターを設置し、配偶者や交際相手からの暴力に対する相談について必要な助言等を行っているほか、困難な問題を抱える女性に対する支援も行っています。